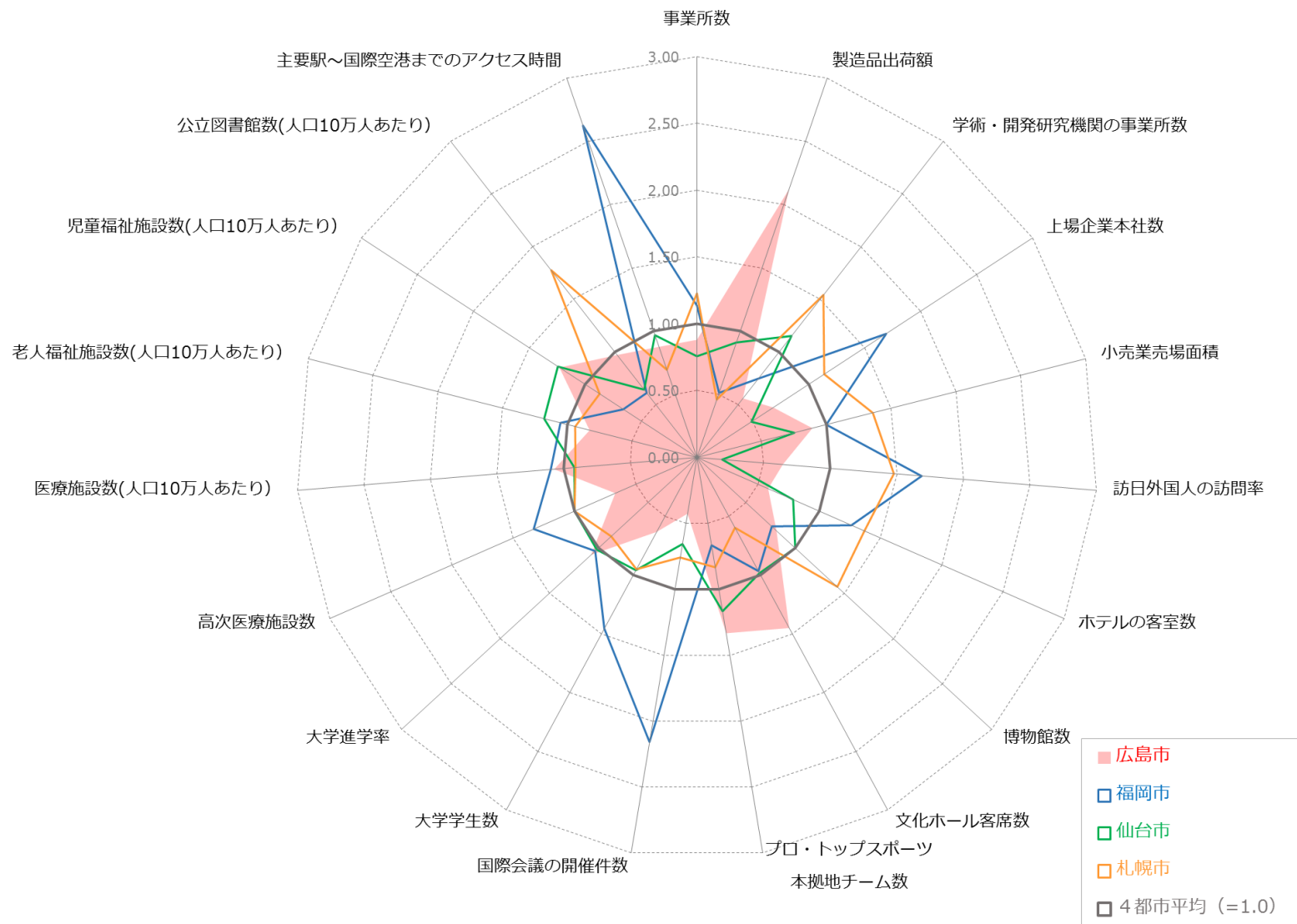


4 都市比較と他都市の事例について

(1) 札幌市・仙台市・広島市・福岡市の4都市比較（行政単位）

① 4都市平均を1とした場合の都市機能比較



【全指標による評価】

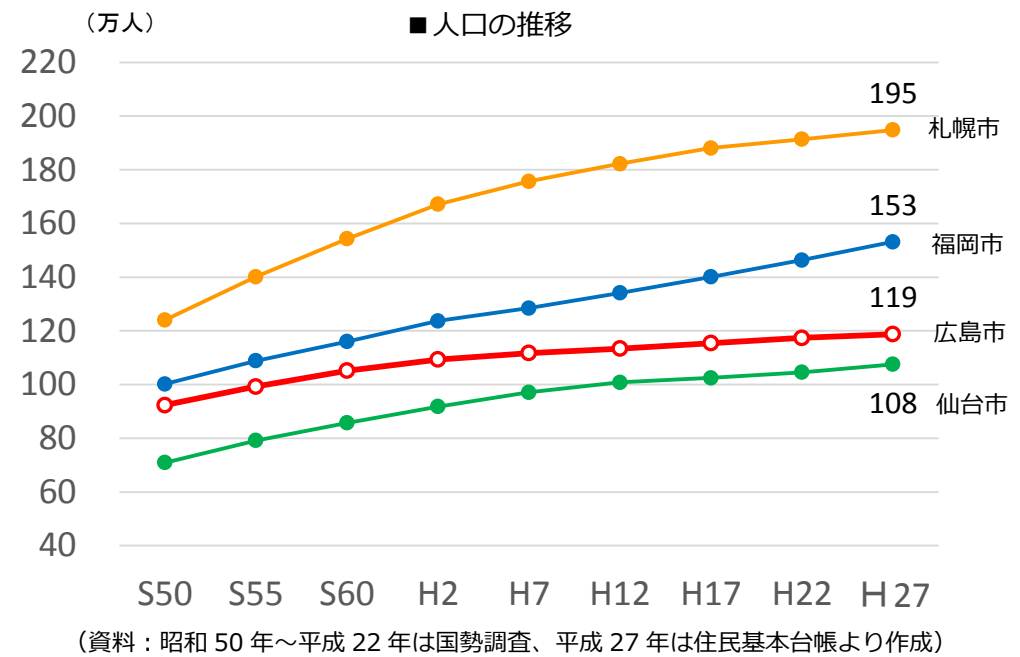
福岡市	札幌市	仙台市	広島市
53.0	50.7	48.0	48.3

※19種類の指標に対する各都市の偏差値を平均したもの

※19種類のデータの出典は、総務省統計局や各自治体等により公表されている市単位の統計値を使用。
注1) 訪日外国人の訪問率については、国土交通省観光庁の県単位のデータを使用。

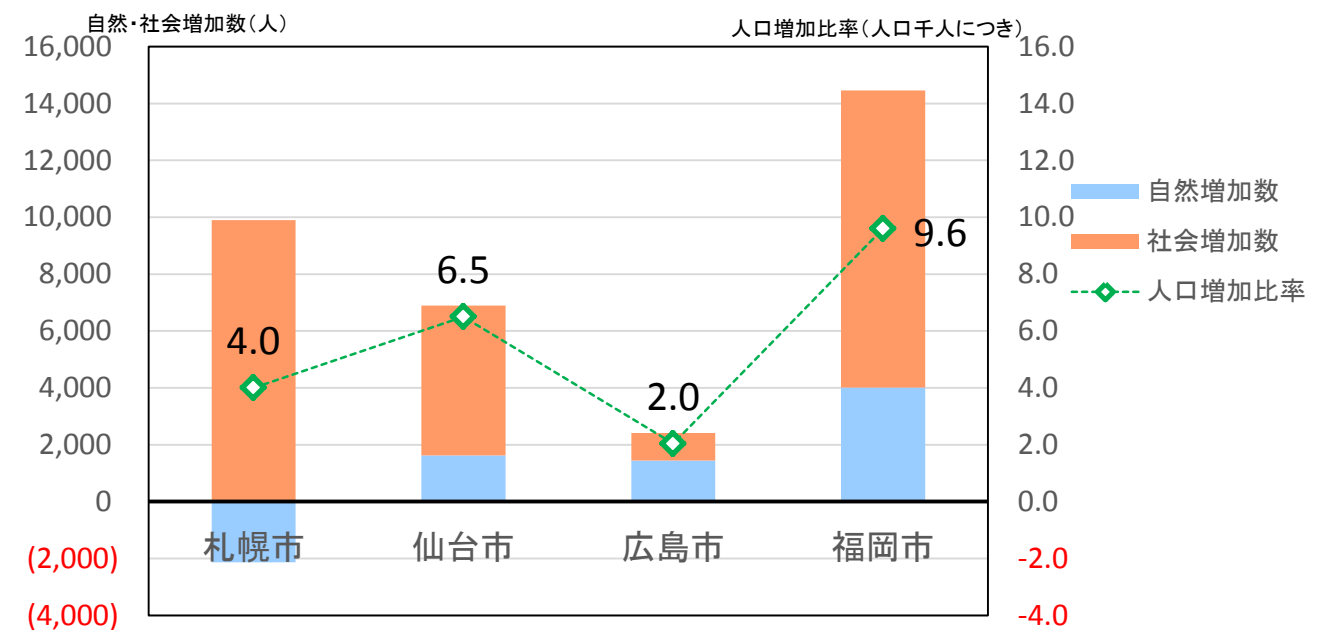
- ・広島市が最も高いのは、「製造品出荷額」「プロ・トップスポーツ本拠地チーム数」「文化ホール客室数」「大学進学率」である。
- ・広島市が最も低いのは、「学術・開発研究機関の事業所数」「ホテルの客室数」「国際会議の開催件数」「大学学生数」「高次医療施設数」「人口あたりの老人福祉施設数」である。

② 人口比較



- ・4都市とも人口増加しているが、近年の伸びは福岡市を除く3都市はピークを迎えつつある。
- ・福岡市の人口増加の伸びが大きい。

■人口移動状況（平成25年）



- ・人口増加率は、福岡市が9.6%と一番高く、広島市は2.0%で一番低い。
- ・社会増加が最も多いのは福岡市の約1万人で、広島市（約1千人）の約10倍である。

(2) 他都市の事例

広島の都心活性化の方向性を考える上で参考となる他都市の事例を紹介します。

【参考】

広島市	
人口	約 119 万人 (約 200 万人)
面積	906.53 k m ²

<p>【参考】都市の選定の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都等の特別な都市機能を有しておらず、国内にあっては県庁所在都市（三大都市圏を除く） ・特徴あるコンセプトを有する、若しくは人口の社会増が多い都市 ・都心活性化の取組に特徴のある都市

都市名	福岡市	富山市	金沢市
人口（都市圏人口）	約 152 万人 (約 316 万人)	約 42 万人 (約 54 万人)	約 46 万人 (約 109 万人)
面積	343 k m ²	1,242 k m ²	469 k m ²
都市のコンセプト	アジアのリーダー都市	コンパクトなまちづくり	世界の交流拠点都市
主な取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を標榜し、観光・MICE の振興と都心部の機能強化を推進 ・戦略的に観光、集客、MICE 誘致を推進しており、2013 年の国際会議開催件数は 253 件と、東京 23 区に次いで 2 位 ・天神交差点から半径 500m の約 80ha を対象に、アジアの拠点都市としての役割、機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビックバン」の推進 ・エリアマネジメント（WeLove 天神協議会、博多まちづくり推進協議会）組織による民間主体のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年 2 月に中心市街地の活性化に向けて、3 つの目標を掲げて施策を展開(中心市街地の歩行者数が約 2 割増加し、人口転入も超過に転じた) ○公共交通の利便性の向上⇒富山港から J R 富山駅を結び、中心市街地を周遊する LRT の整備 ○にぎわい拠点の創出⇒都心部の再開発による交流施設(グラウンドプラザ)を整備 ○まちなか居住の推進⇒LRT の駅周辺及びバス停周辺での住宅の供給・購入等に対する補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化に対する基本的な方針の一つとして、伝統と創造による個性あるまちづくりを掲げ、歴史的な街並みや伝統文化を活かしたまちづくりを推進 ・北陸新幹線金沢開業による社会的・経済的なプラス効果を生かせるような取組 ・平成 16 年にオープンした金沢 21 世紀美術館は、まちに開かれた公園のような美術館を目指しており、年間入館者数約 150 万人を誇る ・旧大和紡績工場を金沢市民芸術村(自主管理方式により 365 日 24 時間オープン)に整備することにより、市民の芸術活動を推進

都市名	札幌市	ポートランド(アメリカ合衆国オレゴン州)	シアトル(アメリカ合衆国ワシントン州)
人口（都市圏人口）	約 194 万人(約 249 万人)	約 58 万人 (約 223 万人)	約 61 万人 (約 343 万人)
面積	1,121 k m ²	377 k m ²	217 k m ²
都市のコンセプト	北方圏の拠点都市。新しい時代に対応した生活都市	歩いて暮らせるコンパクトな街	安全で生活しやすく、活気にあふれ、移動しやすい都市
主な取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年に、今後 10 年間程度の戦略的計画として、「さっぽろ都心まちづくり戦略」を策定 ○目標：世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心の創出 ・現在、今後 20 年間の都心まちづくりの指標となる都心まちづくり計画を検討中 ○目標(案)：国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立、コンパクトな都心のライフスタイル・ワークスタイルを実現 ・平成 22 年度から都心にエリアマネジメントを導入 ○商業を中心とした大通地区：札幌大通りまちづくり(株) <ul style="list-style-type: none"> ・大通りすわろうテラス、コワーキングスペースの運営等 ○金融・ビジネス街の札幌駅：札幌駅前通まちづくり(株) <ul style="list-style-type: none"> ・駅前通地下歩行空間の活用、北 3 条広場でのイベントの実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ・全米住みたい都市ランキングにおいて、常に上位に位置(若い世代を中心に移住者が多い) ・都市成長境界線の設定(1979 年)により、都市をコンパクトに集約 ・1980 年代より車社会から公共交通機関を軸とする歩いて暮らせる街を目指す。都心の高速道路を撤去し、路面電車を郊外に延伸 ・市街地の再開発により、都心居住を進め、市民を郊外から中心部に誘導して街の活性化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全米で人口増加率の高い都市で常に上位に位置 ・他の敷地に開発権を移転する制度(TDR)を活用した都心の再開発 ・都心に住宅、オープンスペース、コミュニティセンター等を導入した民間開発における容積率の割増 ・近隣コミュニティの活動による都心の活力維持